あとがき

旧日本陸軍　作戦要務令　綱領第11には，「……もとよりみだりに典令にそむくべからず．またこれに拘泥して実効を誤るべからず．よろしく工夫を積み，創意に務め，もって千差万別の状況に処し，これを活用すべし．」とある．「典令」をやや広く解釈すれば，医療現場で使われるマニュアル等もこの範疇に入る．その視点で読めば，前半の記述は頷ける．マニュアルの規定はみだりに破ってはならない．しかし，杓子定規にこれに拘ると，その実効性がなくなる．後半は，創意工夫して，千差万別の状況に対処すべくマニュアルを活用せよ，ということである．では，どうすれば良いのか，その根本的考え方が作戦要務令からは読取れない．実践者としての学びには，「私とあなた」，という顔の見える基本的人間関係が不可欠である，ということを青山大学教授（前東大教育学部長）佐伯　胖氏が述べている．例えば，手術のある技術は外科の先輩の指導が思い出され，ある合併症の予兆はそれを学んだある患者さんのことを思い出す，という経験は臨床医なら持つと思う．このように，我々の技量や概念は，それを学んだ場を見返してみると，そこには先輩医師であれ，患者さんであれ，直に関わった人がいると思う．学ぶとは，マニュアルというプログラムを機械的に頭の中に書き入れるような作業ではなく，人間交流の上にのみ成り立つものである．そのような学びの場でのみ，マニュアル活用の秘訣が開示され得るように思う．作戦要務令に限らず，陸軍の教育体制全般でこの配慮が欠けていたように思う．その結果，典令が十全に活用されず，機能的な活動が鈍り，組織そのものが消滅したのかもしれない．とするなら，創意工夫して千差万別の状況に対処する，その秘訣を学ぶ場を創り得なければ，医育機関も同じ運命を辿ることになると思う．

（行岡　哲男　記）

幹事会（要旨）（平成14年3月）

1. 第149回医学会総会の進行状況について報告があった．
   開催日時：平成14年6月1日（土）
   当番教室：生理学第2，放射線医学
   発表形式：パネル発表応募数現在状況14件 学生2件
2. 編集状況の報告並びに編集方針について討議した．
   投稿論文が減少気味であるので各教室，学内研究会に投稿を呼びかけることとした．
   「フロッピーディスクによる論文提出の留意事項」の見直しについて説明があった．
3. 臨床懇話会報告
   開催報告
   第317回平成14年1月28日　精神医学　富澤 治講師
   第318回平成14年2月22日
   （霞）循環器科　栗原 正人講師
   開催予定
   第319回平成14年3月28日
   （八）外科学第五　松野　直徒講師
   第320回平成14年4月3日
   救急医学　行岡　哲男主任教授
   第321回平成14年5月未定　（霞）内科学第五　未定
4. 審議事項
   東医大誌と東医大紀との統合について看護学校紀要をも含む統合の方向で検討することが確認された．
5. 平成13年度仮決算，平成14年度予算案，貸借対照表について説明があった．
6. 次回幹事会を評議員会と合同で5月22日に開催することとした．

医　学　会

伊東　洋（会長）　荒井　貞夫（委員）
髙山　雅臣（副会長）　一色　淳（〃）
小柳　叅久（〃）　岩本　俊彦（〃）
石丸　新（庶務幹事）　遠藤　任彦（〃）
鈴木　衞（〃）　後藤　浩（〃）
内野　善生（編集幹事）　福江　英尚（〃）
大屋敷　一馬（〃）　松岡　健（〃）
飯森　眞喜雄（会計幹事）　松宮　輝彦（〃）
下光　輝一（〃）　水口　純一郎（〃）
星加　明徳（監事）　宮岡　正明（〃）
向井　清（〃）　森安　史典（〃）
J. P. バロン（委員）　行岡　哲男（〃）
浅倉　英樹（〃）

編集委員会

内野　善生　　松宮　輝彦
大屋敷　一馬　　水口　純一郎
鈴木　衞　　森安　史典
遠藤　任彦　　行岡　哲男
松岡　健

平成14年6月20日　印刷
平成14年6月25日　発行

東京医科大学雑誌　第60巻　第3号

発行者　伊東　洋

発行所　東京医科大学医学会
（東京医科大学内）
東京都新宿区新宿6-1-1
TEL 03 (3351) 6141 (代)
FAX 03 (3226) 7030

印刷所　笹氣出版印刷株式会社
仙台市若林区六丁の目西町8-45
TEL 022 (288) 5555